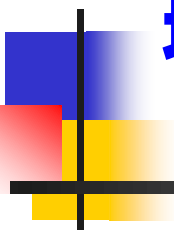


改訂の概要

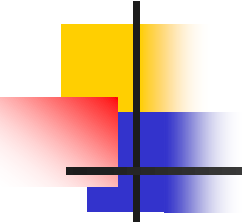
D. 衛生薬学

現行:C11-C12 → 改訂:D1-D2

- 
- ・文部科学省 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会委員
 - ・日本薬学会 薬学教育モデル・コアカリキュラム及び実務実習モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会委員
 - ・モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム 5グループ責任者

太田 茂（広島大学薬学部）

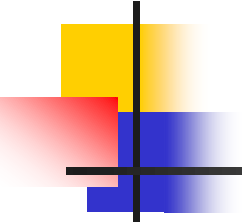
代理：奥 直人（静岡県立大学薬学部）



コアカリ改訂チーム 5グループ

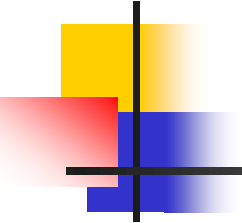
衛生薬学

- 工藤なをみ 城西大学
- 足立 達美 千葉科学大学
- 矢ノ下良平 帝京平成大学
- 平野 和也 東京薬科大学
- 小椋 康光 昭和薬科大学
- 原田 均 鈴鹿医療大学
- 見坂 武彦 大阪大谷大学
- 角 大悟 徳島文理大学
- 野地 裕美 徳島文理大学
(香川薬学部)
- 戸田 晶久 第一薬科大学
- 大谷 壽一 日本病院薬剤師会
- 榊原 明美 日本薬剤師会
- 太田 茂 薬学会コアカリ委員
- 平田 収正 薬学会コアカリ委員
- 亀井美和子 薬学会コアカリ委員



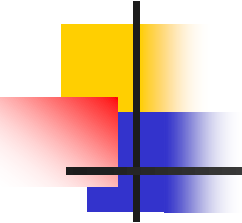
改訂の要点 衛生薬学

D(衛生薬学)はD1(健康)およびD2(環境)で構成され、薬剤師としての基本的資質の中で、主に「基礎的な科学力」と「地域の保健・医療における実践的能力」を取り扱うとの共通認識のもと、健康と環境に関する基本的事項を選定した。医療人養成教育において必要な健康に関する事項、環境に関する事項を取り入れることによって、将来、医療現場において役に立つことを想定して構成している。



改訂の要点 衛生薬学

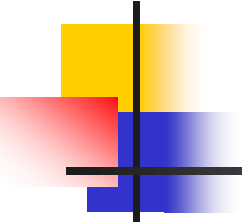
健康に関する現行のコアカリキュラムとは順番が異なっているが、学生が理解しやすいという観点から並べ替えている。また現行のモデルコアカリキュラムの中でコアとは考えにくいものについては削除するかアドバンストカリキュラムに移行した。



アンケートへの対応 衛生薬学

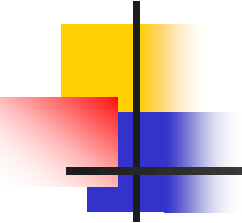
各大学等から頂いたご意見を精査し、以下の点について修正を行った。

- **放射線の生体への影響、乱用薬物の項目は現行の内容に近い形に復活させた。**
- **化学物質の適正使用について項目を追加し、表現を修正した。**
- **栄養の項目の中に疾病治療との関連を追加した。**
- **ご意見のあった語句の統一と修正を行った。**



改訂の作業方針 削除項目 態度またはアドバンストへ(例示)

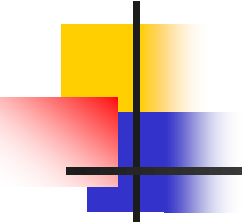
- 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)
- 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)
- 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)
- 環境ホルモン(内分泌攪乱化学物質)が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)



改訂の概要 削除項目

アドバンスト、他項目に包括(例示)

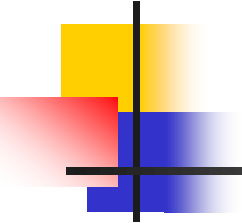
- 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。
- 国勢調査の目的と意義を説明できる。
- 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。
- 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。
- 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。
- 世界保健機構(WHO)の役割について概説できる。



改訂の概要 削除項目

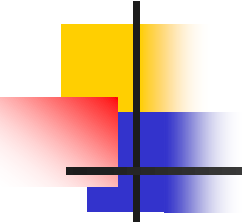
アドバンスト、他項目に包括(例示)

- 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。
- 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。
- 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。
- シックハウス症候群について概説できる。



改訂の作業方針 削除項目 他分野と重複(例示)

- 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。

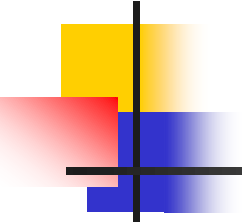


改訂の作業方針 統合項目(例示)

- **【電離放射線の生体への影響】**
- 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。
- 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる
- 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。
- 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)について説明できる。



電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。



改訂の作業方針

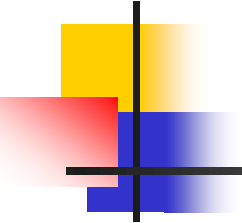
追加項目(例示)

D 1 (2) 【疾病の予防とは】

- **健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。**

D 1 (3) 【栄養】

- **疾病治療における栄養の重要性を説明できる。**



改訂の作業方針

追加・修正項目(例示)

D2(1) 【化学物質の毒性】

- 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)
- 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。

D2(1) 【化学物質の安全性評価と適正使用】

- 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)

衛生薬学 現行と改定案の比較

改訂案

D 衛生薬学		
D1 健康		39
(1) 社会・集団と健康	8	
(2) 疾病の予防	13	
(3) 栄養と健康	18	
D2 環境		41
(1) 化学物質・放射線の生体への影響	19	
(2) 生活環境と健康	22	
		80

現行

C11 健康		54
(2) 社会・集団と健康	14	
(3) 疾病の予防	17	
(1) 栄養と健康	23	
C12 環境		56
(1) 化学物質の生体への影響	26	
(2) 生活環境と健康	30	
		110

SBOsは71.8%に減少 詳細は配布資料の新旧対照表参照

ご清聴ありがとうございました